

平成 26 年 11 月 3 日（日）に寺田寅彦記念館に於いて「寺田寅彦先生の地球科学観に学ぶー減災科学研究の推進ー」と題して減災科学研究会が独立行政法人海洋研究開発機構地震津波海域観測研究開発センターの主催で南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトが開かれました。話題を提供して下さったのは名古屋大学減災連携研究センター特任教授の金田義行先生でした。



歴史の中でたびたび日本を襲ってきた地震や津波の正体を知り、次にやってくる被害を軽減しようとする研究が懸命に進められており、寺田寅彦先生に学ぶ事も多く、地震・津波研究を減災に生かすためにはどうしたらいいかを皆で考えていく事など、自然災害を説く際によく使われた言葉などをスクリーンに映し出して語られました。



地震の恐ろしさや太平洋側の津波の恐ろしさについて特定の場所を例に上げて人の動きや車の動きなどを詳しく解説されました。2時間程の講話でしたが約30名の方は話の内容に引き込まれていました。参加者の中には、神奈川県の方から理学博士など4名、そして、気象予報士や防災士大学の教授などの方がおられ、熱心に質問をされていました。寺田先生が防災・災害について多くの研究をなされていたことについても話題がつかることなく瞬く間に時間は過ぎていきました。

また、寺田先生の「科学者とあたま」のコピーを参加者に配られ、「科学者になるには『あたま』がよくなってはいけない。」これは普通世人の口にする話であり、ある意味では本当だと思われるが一方では又頭が悪くなくてはいけないという話、駄目だと決まっているような試みを一生懸命に続けているということ。頭の悪い人は前途に霧がかかっているために却って楽観的であり、難関に出逢っても存外どうにかしてそれを切り抜けて行くというようなことも語られ、和やかな雰囲気でも賑わっていました。

最後に、寺田先生が育まれたこの地で講演できる事を喜ばしく思うと述べられて金田先生一行は記念館を後にされました。